

2026年2月24日

株式会社三菱UFJ銀行

## 本邦初となる韓国ウォンのデリバラブル為替取引を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 <sup>はんざわじゆんいち</sup>半沢淳一、以下 三菱UFJ銀行）は、2026年2月24日に本邦初となる韓国ウォンのデリバラブル為替取引（ウォンを実際に受け渡しする為替取引）を、機関投資家のお客さまとの間で締結しました。

韓国政府は、従前から自国の金融市場が先進国に相応しい評価を受けることが必要との認識を示し、2023年には韓国国債が世界国債指数（WGBI）に組み込まれることを目指すと発表しました。グローバルインデックスに自国市場の参入が認められるため、韓国金融当局が対外開放や取引時間の延長を進めた結果、2024年10月には韓国国債のWGBI参入が決定しました（組み入れ開始は2026年4月から）。2026年11月の組み入れ完了時には、WGBIに占める韓国国債の比率は2%程度まで高まると予想されます。

WGBIへの組み入れに伴い、パッシブ運用（特定の指数と同じ値動きを目指して運用する手法）を起点とした8~9兆円規模の海外投資家の資金が、韓国市場に流入すると見込まれております。韓国にとっては、韓国ウォン安の動きからの転換や、国債の買い手増加による金利引き下げ効果などが期待されます。

韓国ウォンの為替取引は、従来は韓国内に所在する金融機関のみが取り扱いを認められていましたが、2023年の規制緩和以降はRegistered Foreign Institution（RFI）として韓国金融当局に登録すれば、海外に所在する金融機関であっても韓国ウォンの為替取引を顧客に提供することが可能となりました。

三菱UFJ銀行は、韓国政府が韓国ウォンの為替取引の対外開放を進めると発表して以降、韓国金融当局と緊密に連携を図りながら、枠組みの実現に向けて準備を進めてきました。結果、2024年2月に本邦初となるRFI登録の認可を取得し、今般本邦で初めて、RFIの枠組みを通じた韓国ウォンの為替取引を機関投資家のお客さまと締結することに成功しました。

日本には、グローバルインデックスを見合いとしてパッシブ運用を実施する機関投資家やファンドが多く、韓国国債のWGBI組み入れが開始される4月以降、日本から韓国国債に投資する資金が増加することが予想されます。三菱UFJ銀行では、機関投資家のお客様の投資利便性を高めるため、今後も本邦にて韓国ウォンの為替取引機会を提供する体制を整えました。

韓国政府は、次の一手として韓国株式指数がMSCI先進国指数に組み入れられることを目指しております。海外から韓国の資本市場に対しては、将来的に更なる資金流入が見込まれます。三菱UFJ銀行は、今後も、韓国金融市場の対外開放の動きに合わせ、グローバルに韓国ウォン取引の提供能力の拡大を目指してまいります。

以上